

7月30日(日) スケジュール

【参加費は無料】

第20回「小津安二郎記念・蓼科高原映画祭」記念

「蓼科・夏の小津会」

日程：2017年7月28日～30日

会場：無藝莊、蓼科高原会館



小津安二郎記念 蓼科高原映画祭

主催：「小津安二郎記念・蓼科高原映画祭」実行委員会 共催：茅野市 茅野市観光協会

小津が歩いた蓼科を散策 ガイド付きで歩く「小津の散歩道」

9時30分「無藝莊」集合（雨天決行）往復約2時間コースです。未舗装路の林間コースです。道は整備されており決して無理なコースではありませんがやや急な登り道もあります。履きなれた靴でご参加ください。日除けの帽子や水分補給の準備もお願いいたします。



**第20回 小津安二郎記念
蓼科高原映画祭**
9月16日土～24日日
会場／茅野市民館・新星劇場・ベレック・無藝莊
ご期待ください！

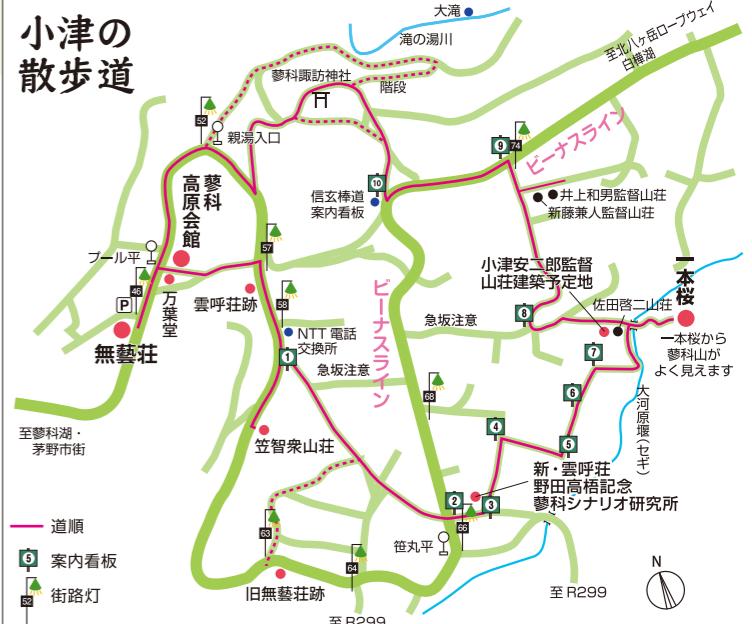
●お問い合わせは

「小津安二郎記念・蓼科高原映画祭」実行委員会事務局

〒391-8501 長野県茅野市塚原2-6-1
TEL.0266-72-2101 (内線423, 424) FAX.0266-72-5833
<http://www.tateshinakougen.gr.jp/cinema>

蓼科観光協会

〒391-0301 長野県茅野市北山4035
TEL.0266-67-2222 FAX.0266-67-4914
<http://kk.tateshina.ne.jp/>



蓼科観光協会
0266-67-2222



7月28日(金) スケジュール

9
..
45
オープンニングセレモニー(無藝莊)

10:00~11:00

**山内静夫さん
長井秀行さん対談****タイトル**
無藝莊火代談義
一小津安二郎・人と仕事
トークの内容

小津が作を脱いで窓に窓にいつも居たのは小津組プロデューサーとして公私ともども長い時と一緒に過ごした山内静夫さんと、小津の甥である長井秀行さんであろう。その二人に未だ知られざる小津の人となり、仕事ぶりをたっぷりと語っていただく。小津が間違なく心を解き放つであろう蓼科の日々、心の垣根を取り払って交流があった映画界の人物伝。若き小津が出会った天折の天才監督・山中貞雄との友情もその一つである。

13:00~14:00

**兼松熙太郎さん
宮本明子さん対談****タイトル**
絵コンテと撮影現場
一小津安二郎の場合
トークの内容

人物配置、撮影順序などが精密に記され、色分けされた小津組の絵コンテは、それ自体が美しいデザインとして知られる。会場では、現存する絵コンテや映画の一部をスライド映写しながら、撮影当時や撮影方法を振り返る。小津組で「彼岸花」をはじめ、「お早よう」、「秋日和」の三作品に撮影助手として携わった兼松監督に聞く。

(聴き手:宮本明子)

16:00~17:00

**川西成子さんの
お話****タイトル**
父 笠智衆を語る
—蓼科の思い出
トークの内容

小津映画には絶対欠かせない俳優である笠智衆は、小津と野田が仕事を蓼科に移してから折に触れて足を運ぶようになつた。さらに、二人の強い勧めもあってついには自分の山荘を持つことになる。そして亡くなるまでの30年以上蓼科に通い、静謐な自然をこよなく愛した。その生活ぶりや散歩姿を見かけた地元の人は今でも多い。そんな俳優を父として接してきた川西さんが父の思い出、蓼科の思い出を語る。

17:00~

上 映 開 場
19 18
00 30
映画上映会
「彼岸花」
会場／蓼科高原会館
会 費／無 料**9:30~10:30**
**スザンヌ・シェアマン
さん講演****タイトル**
四人の巨匠と女性
トークの内容

映画制作の初期段階で、まず主人公が男性か女性かという決定が為されます。そこから作品のジャンルや雰囲気、観客層までも決まるのです。小津安二郎はじめ、黒澤、成瀬、溝口による女性を主人公にした作品を分析していきます。ヒロインの選択からその描き方、演出方法、さらには「女性映画」という用語について一緒に考えたいと思います。

11:00~12:00

**杉原賢彦さん
講演****タイトル**
パリの小津安二郎たち
トークの内容

小津安二郎監督の影響は、フランスでこそ濃い。たとえばアブデラティフ・ケシシュの『アドル、ブルーは熱い色』(2013年カンヌ映画祭で最高賞のパルム・ドール賞受賞)では、小津さん的な色彩の配置が行われている。小津監督を巡る最近のフランス映画事情を紹介する。

13:00~14:00

**柏木隆雄さん
斎藤民夫さん対談****タイトル**
斎藤高順の仕事
一小津安二郎との幸福な出会い
トークの内容

航空自衛隊や警視庁音楽隊長の経験を持つ斎藤高順は小津映画でもなくてはならない人物であった。小津との出会いは「東京物語」。画面が悲しくても、いつもお天気のいい音楽であって欲しいと考える小津と斎藤の音楽性が見事に合致して、以後、「サセレシア」「小津調ポルカ」などの音楽が誕生していく。語られることが少なかつた小津映画の音楽について、サイトウ・メモリアルアンサンブルの演奏映像を交えながら所縁の深いお二人の話を伺う。

15:00~16:00

**北川景貴さん
講演****タイトル**
小津安二郎●美の系譜
一北川靖記が残した世界
トークの内容

小津の本物志向はよく知られているところである。撮影セットの背景に掲げられた美の世界。それは日本画壇の大御所、梅原龍三郎、山口蓬春、東山魁夷、橋本明治らの実物画である。そこに一人の美術商の存在がある。小津から全幅の信頼を得て、小津の美意識を支えていた北川靖記である。叔父である北川氏の精神を引き継ぎ、「小津ごのみ」の世界を探求している北川景貴氏が小津映画の劇中に使用されていた品々を紹介しつつ小津の美意識に分け入る。

7月30日 9時30分
無藝莊集合／無料小津が歩いた蓼科を散策
ガイド付きで歩く「小津の散歩道」

■各講座共・会場／無藝莊 500円(ソフトドリンク付)

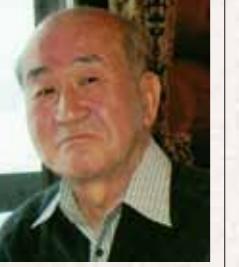
■懇親会・会場／無藝莊 2,000円

■映画上映会・会場／蓼科高原会館(28日) 無料

■講師紹介

**山内静夫さん**

1925年、小津と交流の深かった里見弾の四男として鎌倉に生まれる。48年松竹株式会社に入社。56年小津監督「早春」より小津組プロデューサーとなり、以降、小津の松竹全作品に携わる。78年松竹株式会社取締役。松竹退職後、鎌倉ケーブルテレビ局ミニケーションズ代表取締役社長、鎌倉文化館館長、鎌倉市芸術文化振興財団理事長、鎌倉同人会理事長などを歴任。受賞歴:89年「藤本真澄賞」2016年第61回「映画の日」特別功労章著書:「松竹大船撮影所覚え書き」、「八十年の散歩」

**長井秀行さん**

1937年、東京に生まれる。57年松竹大船撮影所(撮影課)入社。主に厚田雄春、小杉正雄氏に師事し小津作品(「彼岸花」「お早う」「秋日和」)に撮影助手として従事。70年、松竹退社後はフリー撮影監督として活躍。横浜博では大型映像IMAX作品を担当。2002年から現在まで日本映画撮影監督協会の理事長を務める。04年から「撮影助手育成塾」を開校、塾長に就任。平成23年度文化庁映画功劳賞受賞。平成26年度日本映画テレビ技術協会栄誉賞受賞。

**兼松熙太郎さん**

1937年、東京工業大学環境・社会理工学院助教。表象文化論、日本映画研究。小津安二郎監督作品の一次資料分析。小津監督をはじめ、関係者の書き込みに入る映画台本、ノート等の一次資料分析とともに、関係者への聞き取りを進めている。

**宮本明子さん**

東京工業大学環境・社会理工学院助教。表象文化論、日本映画研究。小津安二郎監督作品の一次資料分析。小津監督をはじめ、関係者の書き込みに入る映画台本、ノート等の一次資料分析とともに、関係者への聞き取りを進めている。

**川西成子さん**

笠智衆と花鏡夫人の間には二男二女があり、その長女として大船(旧鎌倉郡、現在の鎌倉市)に生まれ育つ。父が蓼科に山荘を構えて以降今日まで約60年近く、娘時代は主に冬を、子供ができるからは夏を蓼科で過ごしている。蓼科での日常は両親ばかりでなく小津安二郎や野田高梧と過ごしたこと多かった。父が残した笠山荘を今でも現状のまま守っている。現在は古儀茶道敷内流のお茶を楽しみながら主婦をしている。

写真:左から野田静、小津、野田、山内玲子、川西(笠)成子



昭和32年より小津が正式に借り受けた山荘。それ以前の持ち主は岡谷のシルク王片倉製糸で、山荘名は「片倉山荘」とも「隔雲荘」とも言っていた。それを小津自ら「大食は無藝に通じる」との戯言を引いて「無藝荘」と命名。

7月28・29日は無藝荘の一般公開はしておりません。

■ご案内

**彼岸花(1958年)**

監督: 小津安二郎、脚本: 野田高梧、小津安二郎
出演: 佐分利信、有馬稻子、山本富士子、久我美子、
田中綱代、佐田啓二 配給: 松竹 時間: 118分



親交深かった作家・里見弾の原作を、野田高梧と共同で脚色した小津監督の初のカラー作品。大映から山本富士子を招き、小津ごのみの装いや小物など、小津の色彩を鮮やかに映し出した。結婚期にある娘と、娘の結婚に冷静になれない頑固父親を喜劇仕立てで描いている。

©松竹株式会社



表紙の「蓼科日記抄」注釈
鞠躬如(きつきゅうじょ)
俗(ぞく)
心狭く(せきく)
卑しい心(ひしこころ)
身體をかかげるさま(身體をかかげるさま)